

出生前検査の選択

13,18,21トリソミーの検査である、
コンバインド検査とNIPTの違いについてご説明します

■ コンバインド検査とは？

赤ちゃんの染色体疾患の「確率」を算出する検査です。

超音波検査



赤ちゃんのサイズ
首のむくみ(NT)
心拍数

母体血液検査

PAPP-A
 β -hCG



母体背景



年齢など

これらを、過去の統計データと照らし合わせ、

「同じような検査結果の方の中で、どのくらいの割合で染色体疾患がみられたか」を確率(1:○○)で示し
その結果を基準値と比較し低リスク、高リスクと判断されます

【メリット】

● 費用が抑えられる

費用面を重視される方に
選ばれることが多いです

● 陰性的中率が高い

結果が「低リスク」の場合、
99%の確率で

染色体疾患はないと考えられます

【デメリット】

● 「確率」の検査

胎児由来の染色体を
みる検査ではありません

● 陽性的中率が低い

「高リスク」の結果でも、実際には
赤ちゃんに異常がないことが多いです

※ 高リスクと判定され羊水検査を行い、
実際に疾患があるのは約100人中9人
と言われています。

● 検査結果が「高リスク」の場合

確定診断のためには羊水検査が必要となります。但し、羊水検査ができるのは16週以降のため、
コンバインド検査の結果が出てから羊水検査を行うまで約1-2ヶ月待つ必要があります。
そのため、直接羊水検査ではなく、より精度が高いNIPTをお受けになる方もいらっしゃいます。

NIPTで結果が陽性の場合の羊水検査は一部補助(約5-7万相当)が出ます。

(コンバインド検査のみの場合は、羊水検査は全額自費になります。)

● 38歳に近いご年齢の方へ

38歳のご妊娠では、ダウントン症の確率は一般的に1:175と言われています。

この検査では、ダウントン症の場合、1:250より確率が高い場合「高リスク」と判断されます。

年齢因子も加味されるこの検査では、38歳に近いご年齢の方では性質上「高リスク」と
判定されやすく、ご不安が大きくなってしまうことがあります。

**年齢因子が検査結果に影響しないNIPTでは、赤ちゃん由来の染色体を直接分析し
精度の高い結果が得られるため、よろしければご検討ください。**

	コンバインド検査	NIPT
検査内容	確率の検査「1/●●」 母体血液(タンパク質やホルモン) エコー(胎児の心拍数、首のむくみ) 母体情報(年齢など) を過去の統計より傾向を計算	赤ちゃん由来の染色体の検査 「陽性」「陰性」 母体血液 (胎児由来の染色体断片) を直接解析
検査対象	13,18,21トリソミー	13,18,21トリソミー
結果までの期間	約1週間	5営業日程度
ダウン症の精度	陰性的中率: 99% 陽性的中率: 9.5%	陰性的中率: 99.99% 陽性的中率: 85-90%以上
検査費用	47,000円(税抜)	120,000円(税抜)
+ 初期精密超音波	コンバインドPlus 77,000円(税抜)	150,000円(税抜)
陽性の場合	羊水検査: 全額自己負担	羊水検査(日帰り入院・穿刺代・検査代等)のうち、 検査代(5-7万円相当)を補助

陰性適中率: 結果が陰性で本当に陰性である確率、陽性適中率: 陽性結果が正しい確率

■ NIPTとは?

母体血液中に含まれる、実際の赤ちゃん由来の染色体を解析する検査です

■ メリット

● 精度が非常に高い

陰性適中率が約99.99%と
コンバインド検査より正確性が高く、
一番大きな違いは

**陽性適中率が、ダウン症の場合
約94%(35歳)、約98%(40歳)と
高いところです。**

(コンバインド検査は10%未満)

● 陽性の場合、羊水検査代を一部補助

陽性の場合、基幹施設の順天堂医院で
羊水検査をお受けいただきます。
その際、検査費用(日帰り入院費・穿刺
費用・検査費用など)のうち、**検査費用
(おおよそ6万円相当)が補助されます**

■ デメリット

● 検査費用が高い

染色体を分析する検査で
1件ずつ解析するため**高価**

● 施設選びが難しい

検査や結果の際に

「しっかりと説明をしない」

「採血をするだけ」

「結果はネットで」

「羊水検査の施設は自分で探して」
など

安心なフォローが受けられない
ことがあるので注意が必要です
特に非認可施設で多いです